

## 最終案内

### 日本教材学会関東・甲信越支部 平成30年度総会並びに研究会のご案内

日本教材学会関東・甲信越支部では、下記の日程で総会並びに研究会を開催いたします。研究会は、「『主体的・対話的で深い学び』と教材開発 ～英語教育を中心に～」をテーマに設定しました。本支部の特色の一つである、教師と研究者、教育現場で使用されているドリルやワークを作成している出版社の方々との意見交換の場を設定することで、実践の場から出版社へ、さらには出版社から全国へと情報が発信され、授業実践と教材開発の議論が深まるものと考え企画いたしました。また、今年度も大学院生による論文発表があります。

現在、学習指導要領改訂に伴う移行措置の期間ですが、今年度も多くの皆様の参加をいただき、活発な会となることを願っています。

平成 30 年 12 月 23 日

- 1 日時 平成 31 年 2 月 23 日（土）午後 1 時から 4 時 35 分まで
- 2 場所 早稲田大学 26 号館（大隈タワー）502 教室 住所：新宿区鶴巻町 516  
JR 山手線・高田馬場駅より都バス「学 02」で「早大正門（終点）」下車徒歩 1 分  
東京メトロ・早稲田駅より徒歩 5 分
- 3 研究会テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』と教材開発 ～英語教育を中心に～」
- 4 当日の時程

- |       |   |
|-------|---|
| 12:30 | 受付開始  |
| 13:00 | 総会開会  |
| 13:30 | 研究会開会（研究会テーマ趣旨説明）   |
| 13:35 | 講演「小・中教員を対象とした外国語担当者研修と発音練習ソフトの活用について」<br>講師：早稲田大学 教育・科学総合学術院教授 折井 麻美子 氏<br>※当日の講演では開発した発音練習ソフトのデモンストレーションも行う予定です。  |
| 14:35 | 事例及び論文発表（4名×20分）<br>①港区立白金の丘学園 校長 伊藤俊典氏 主任教諭 村木宏子氏<br>「主体的、対話的、深い学びと教材開発～小学校・国際科の授業を通して～」<br>②中央区立晴海中学校 主任教諭 谷口了太氏<br>「主体的、対話的、深い学びについての授業改善」<br>③ 早稲田大学教職大学院修士課程 2 年生 梅津遼太氏<br>「高校英語における主体的・対話的で深い学び（仮題）」<br>④ 株式会社 日本標準企画編集部 蟻本昌司氏<br>「小学校英語教材の課題と展望～主体的、対話的、深い学びをどう創り出すか～」 |
| 16:00 | 発表者とフロアとの意見交換   |
| 16:30 | まとめ・閉会の辞  |
| 16:35 | 閉会  |

【担当】細谷美明（関東・甲信越支部幹事）

【問い合わせ先】日本教材学会事務局（澤崎、今多）

〒162-0831 東京都新宿区横寺町 6 4-2 電話 03（5946）8717  
学会 Web サイト [www.kyozaigakkai.jp](http://www.kyozaigakkai.jp)

## <事例発表概要>

### 東京都港区立小中一貫教育校白金の丘学園

#### 白金の丘小学校・白金の丘中学校

校長 伊藤俊典 氏 主任教諭 村木宏子 氏

- 1 はじめに
- 2 港区の取組について
- 3 本校の国際科の取組について
  - ・ 低学年での取組
  - ・ 中学年での取組
  - ・ 高学年での取組
- 4 国際科における主体的・対話的な学びの取組について
- 5 国際科で使用している教材について
- 6 成果と課題

### 早稲田大学教職大学院2年 梅津遼太 氏

平成29年3月公示の学習指導要領で取り上げられているように、探究的な学びによって身につく資質・能力を育成することは日本の生徒にとって喫緊の課題である。このことを踏まえ、本発表では高校英語科において「探究」を行った際に用いた教材を取り上げる。今回、「探究」をガイドする教材として、生徒の学びの過程をガイドするブックレットの開発を試みた。ブックレットにはマッピングやKJ法の仕方、問いを考える鍵となるデータや発表原稿を作成する際のヒントなどが収められており、実際に生徒が使用した様子を含めてその詳細を発表する。本単元は4時間で構成され、最後の授業ではパラリンピックをテーマに英語での発表活動を行った。

英語科では、学習指導要領において「探究」は現在のところ明言されていない。しかし一方で、いわゆる「4技能」と「探究の過程」には親和性があると発表者は考えている。生徒のアンケートを踏まえつつ、本実践の意義についても検討する。

### 中央区立晴海中学校 主任教諭

谷口了太 氏

本校は、東京都の中央区にある公立中学校である。幸いのこと文化祭での1学年の発表として、英語劇「ピーター・パン」を学年として取り組むことができた。1年生の英語のレベルとしては、難しいものもあったが、英語を使って対話的なコミュニケーションを取ることの楽しさを味わうことができた。学期末を迎え、その取り組みを継続し、各クラスで英語劇を学年のまとめとして企画をした。学年全員が役者を経験し、「対話的な学び」にフォーカスをしぼった。

生徒が授業で学ぶ過程で、生徒自身から個人でなく、グループで活動を行いたいと思わせるような場面を設定し、効果的かつ主体的にグループ活動を実践させようと考えている。

内容の概要として、英語劇の事前準備、当日の流れ、事後への続く課題作りを発表する予定である。そしてICTを活用した授業実践や評価についての内容も発表する予定である。

### 株式会社 日本標準

企画編集部 蟻本昌司 氏

今年度から文部科学省より各小学校に教科書的な教材として“Let's Try!” “We Can!”が配付された。2020年の本格実施に向けて、多くの小学校では試行錯誤しながら授業を進めているというのが実態のようである。

教材出版社においても、これまで配付されている“Hi, friends!”や“We Can!”に対応した教材を発行し始めているが、未だ手探り状態にある。

2020年度に小学校で外国語科が本格的に開始されるにあたって、求められる教材とは何か？また、子どもたちの主体的、対話的、深い学びに寄与する教材とは？今、発行されている教材を基に考えてみたい。